

18回はくあい健康まつりを昨年11月11日に開催しました。



京都府赤十字血液センターによる献血

京 都 府 地 域 包括ケア構 意味と現在の状況につい 想 (地 域医療ビジョン)

社会福祉法人京都博愛会 内理 事 科長 冨 \mathbf{H} 哲也

御協力をいただき厚く御礼申し上げます。 看護ステーション「はくあい」 平素は京都博愛会病院、 冨田病院、 など、京都博愛会の運営に格段の御理 デイケアセンターとみた、 訪問

であり、 らし続ける事が出来るよう、効率的な医療、介護、福祉に取り組むもの を推進する為の将来の医療提供体制の構想」です。 京都府地域包括ケア構想は「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮 齢者となる「超高齢社会」を迎えるに当たり、 さて、今から7年後の2025年に団塊の世代が75歳以上の後期 地域医療ビジョンは「地域における病床の機能分化及び連携 昨年春に策定された

期機能、慢性期機能に分けて効率的な医療を提供し、 療を推進するよう求められています。 を必要とする患者が急増するため、開業医のみならず病院でも在宅医 この構想では、入院の病床を高度急性期機能、 急性期機能、 また在宅医 口 復

減少、急性期病床はやや減少、回復期病床は大幅に増加、 は病床ごとに機能分化せざるを得ない状況です。 な中小病院が主体であることから、各病院が病棟ごと、 とんどであるため行政主導による機能分化が容易ですが、 どうするべきか検討し始めています。なお、諸外国では公的病院がほ 床はやや減少するため、大病院から中小病院に至るまで自院の機能を て比較的変動が少ないと言われていますが、高度急性期病床が大幅に 75歳以上は1・5倍に急増します。 京都の医療提供体制は現在と比べ 2025年には2015年と比較して京都府の人口は3%減る一方、 場合によって 日本は私的 慢性期病

りますが、皆様のさらなる御健勝を願い、 宜しくお願い申し上げます。 る事もあるかと思います。医療・介護は今後ますます運営が難しくな ここ数年間で日本の医療提供体制が大きく変化し、各現場で混乱す 今後とも御指導、 御鞭撻を

[博愛] 博愛の精神に基づいて、患者さまや地域の人々にやさしく、親しまれ、信頼される病院を目指します。

[協調]患者さまを中心に協調の精神でチーム医療を行います。

「健康」私たち自身の心と身体の健康に留意し、良い医療・介護・福祉を提供します。

医療の

血液検査で胃がん検診が

京都博愛会病院

内科顧問

若月

北区にお住まいのTさん(75歳)は腰部脊 柱管狭窄症のためリハビリ通院中でした。近 くの診療所で健康診断を受け、血液検査の 結果から胃カメラの検査を勧められました。 当院で内視鏡検査を行うと早期胃癌が見つ かりました。

胃癌は長らく癌死因のトップであり、日本 の国民病ともいわれてきました。そのため、 一定の年齢以上の方に居住区あるいは職場 単位で胃X線検査を用いた集団検診が行わ れてきました。毎年400万人以上の方が胃癌 の集団検診を受け、約40万人の要精検者の うち80%弱の方が精密検査を受けてきまし た。それでも胃X線検査で見つかる胃癌は、 1年間に発見される胃癌の5%程度であり、 治る胃癌の発見率は遙かに低い確率でした。 胃癌検診の胃癌死亡減少効果に対する評価 が問い直され、また限りある医療資源の有 効活用(費用対効果)という観点から、あら たな胃集団検診のありかたが問われてきまし た。

京都市でも平成29年6月より指定医療機 関で内視鏡による胃癌検診が実施されてい ます。最近の研究により、日本人の胃癌の殆 どがヘリコバクター・ピロリ菌(H.ピロリ)の 感染者に起こることがわかりました。10年間 で約0.3%の感染者に胃癌ができますが、感 染者個々人によりその発癌リスクが異なります (図1)。H.ピロリ感染の有無と、感染の結 果起こる胃粘膜の萎縮を血液検査で知るこ とができるようになりました (図2)。 A群か らD群に至る過程で胃癌リスクが高くなりま

す。実はTさんはこのABC検診を受けたの でした。今後はABC検診で、高リスクとさ れた方が内視鏡検査を受けていただくことに より、より効率よく早期の胃癌が発見され治 療されるものと思われます。最後にH.ピロリ 菌の除菌治療を受けても、除菌前の慢性胃 炎の影響が残るため、胃癌リスクは減るもの のゼロにはなりません。そのような方も定期 的な検診をおすすめいたします。

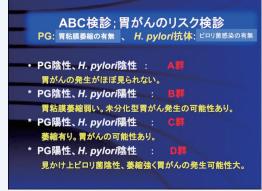
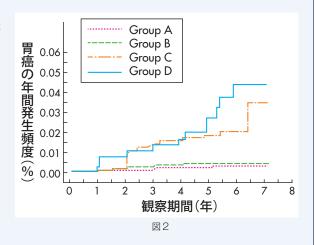


図 1



語

「外来看護師になって|

富田病院 外来 竹村 彩

昨年8月より、病棟勤務から外来へ異動になりまし た。病棟での仕事内容とは全く違うことに戸惑い、「私 にできるのだろうか」と落ち込むこともありましたが、 先輩方の指導を受けながら日々奮闘しています。

毎日多くの患者さんが来られますが、一人の患者さ んと関わりを持つ時間は外来では短縮され、対応技術 を必要とします。例えば、この方は心不全のため体重 測定が必ず必要、この方は目が不自由なため診察室へ の誘導が必要である等、外来 看護師としての役割が多くあり ます。患者さんの特徴を覚える ということも必要です。

外来勤務になり3か月が経ち ますが、たくさんの患者さんを 把握することの難しさを実感し ています。しかし出来るだけ早



く収得し、患者さんに合った継続的な関わりを持ち、 その中で気付きや状況判断ができる看護師になれるよ う努力していきたいと思います。

京都博愛会病院リハビリテーション科 村上 貴士

地域包括ケアシステムの構築が推 進される中、医療機関に「密な地域と の連携」が求められています。

当科ではその取り組みとして京都市 域リハビリテーション協力病院事業に 参加しています。昨年11月16日に地域 の介護福祉専門職方々に対し、当院 退院予定患者に実施している退院前 家屋訪問の紹介と、意見交換会を行 いました。

京都市域リハビテーション協力病院事業に

携わり感じた地域の現実

当科取組を地域の方々に知って頂 き、意見交換ができたことは良かっ た点と言えます。しかし、医療機関と 地域との連携不足により生活に支障 が出ている退院患者を散見するという 厳しい意見が多く、国が理想とする「医 療機関と地域との密な連携」が不足 している現状を知り、地域での当院 の立ち位置を再考する時期だと感じる 機会となりました。





が、

話しかけると目を開けてうなずいてく

わが町のホームドクター

頼っていて、毎日をベッドで過しています。 りました。 ており、 大正十三年生まれの母は満九十三歳にな 年位前から言葉が出なくなりました 栄養は中心静脈注射の点滴に

母は今、 私は妹と交代で病院に通っていま 冨田病院の障害者病棟に入院し

考えて優しく声をかけてくださるのが嬉し は、看護師の方達が何度も病室に様子を見 復し、乗りこえてきました。体調が悪い時 いつも適切な治療をして下さるおかげで回 に来て下さいます。何よりも母の気持ちを 高熱を出した時には主治医の岡田先生 おしゃべり好きだった母の声は聞けませ

スタッフ

いです。

つらい時には涙をため、気分のよくない日 興味ある話には目が輝きます。

母の入院によせて

勝矢 啓子

ております。

の方達には大変お世話になり心より感謝し これからもどうぞ宜しくお願い申し上げ



はうつろな目になります。 れますし、 んが、気持ちは充分伝わります。

岡田先生はじめ看護師の皆様、

ます。

京都博愛会病院

「医療講話 ~ライフステージと糖尿病~

医師による

今回は、

京都博愛会病院顧問若月芳雄 「ライフステージと糖尿病」の

ました。 療講話」 例の「岩倉幡枝医

を

開催し

館において、

毎年恒

患者さんの疾患

活動量の低下を招き、

それが更なる閉じ

院

結果生活機能の低下、

精

神

閉じ籠りによる筋力

岩倉幡枝公民

Ш

成 29

年

· 9 月

14

高くなります。

講話です。

開催されました。 第16回医療講話 筋膜リリース法」 という治療法をご紹介い ただきました。 先生が日頃、取り入れておられる「エコー下、 が外科、増田医師が講師を担当しました。 「疼痛(いたみ)について」 と題し 当院整 今年のテーマは

りその感じ方は様々です。 社会的な要因で起こるものがあり、 何らかの障害を起こして生じるもの、 痛みの治療には外傷によるもの、 腰痛の85%は原 神経に 人によ 心理

冨田病院

「**医療講話** ~疼痛(いたみ) について - エコー下、筋膜リリース法による治療~



平

29

年

富田 成

接する安楽荘にて 病院に隣 10 月

きが悪くなっているそうです。 います。 によるとするならば、その部位の筋膜も動 痛みがその部位の筋肉の異常収縮する事

がらも加減を見ながら動く」 おられます。 痛は安静にしていては治りません。 治療後の自己管理も大切です。 慢性腰 「痛いな

因がよく分からないというのが印象的でし

したが、 は皮膚と筋肉の間にある筋膜に着目されて 痛みの伝達経路は神経と言われてきま 筋膜によるという説もあり、

さって下さい。

講話

で確認しながらその部位の圧痛点の筋膜に 届く注射をして痛みに対する治療をして 先生はエコー

「動いた後、

る皆様、 腰痛で困っておられ 冷やさない」 がありました。 参考にな とお

状に照らして質問 答では、 方からご自身の症 参加者の

がありました。

にあります増田医院で診療の傍ら、 増田先生は下鴨



されています。 金曜午後に外来診療を担 村田 淑子) 当

では週1回、

富田病院 相談室

と でいること、 いことが挙げ 見すごされやす 多くの薬を飲ん れました。 経過をとらずに 症状が典型的な もっていること、 人差が大きいこ その病気の 個

糖尿病があると、

認知症の発生リスクが

び交いました。

(京都博愛会病院

相談室

間 泰年 マに沿って話が進められました。

認知症と糖尿病の関係については、

元々、

|伴う糖尿病治療の問題点|

の2つのテー

「高齢化

「生活習慣病と認知症の関係」

高

低血糖が起こるとそのリスクは更に



糖が起こりやすくなります。 また、 認知症があると低 次に高齢 低下が生じ、 レイル」においては、

介護が必要になる手前の虚弱な状態

関係、 ロールについては、少し高目でコントロールす 種類は何が良いのか等多岐に渡る質問が はどんな状態なのか、 ることが望ましいとの話がされました。 籠りを招く悪循環が起きます。 「小太り」くらいが良く、血糖値のコント また、その後の質疑応答では、 以上のことより高齢者については、体型は 糖尿病と遺伝との関係、 物忘れと糖分摂取の 食べる肉の 低血 糖と

京都博愛会病院

病

はくあい

田

訪 問 看 護ステーション

TEL:075-781-1131 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1 http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai/

TEL:075-491-3241 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町56 http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita/

当

院

TEL:075-491-2711 〒603-8041 京都市北区上賀茂ケシ山1 http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/hakuai_nursing/

TEL:075-491-0700 〒603-8132 京都市北区小山下内河原町69 ディケアセンターとみた http://www.kyoto-hakuaikai.or.jp/tomita_care/